

平成 30 年度 評価委員会 討議内容

1. 開催日時 令和元年5月27日(木)、令和2年3月16日(月)
2. 参加者 連合町会長、大学教授、PTA会長、幼稚園より2名
3. 内容

(1)幼稚園の取り組み(重点目標)について

○『自然とのふれあいを豊かにできる取り組み』について

- ・子どもたちの興味や関心を引き続けるには、常に見通しをもった環境構成が必要である。クラス担任の意識の深さに左右される為、研修を深める取り組みが必要である。
- ・自然クイズについては、子どもの生活に定着し、5歳児を中心に取り組んでいる。

○『主体的に運動の異取り組み子どもを育てるための教師の指導のあり方』というテーマに基づいた研究内容について資料に基づき説明をする。

- ・4回の研修を受け、教師の意識の変容が見られ、楽しく運動することで、力が高められること、また、個々に楽しく参加することで、クラス全体の活動の盛り上がり生まれ、新たな遊びの創造にもつながるという効果も得られた。

○『なかのテーマパーク』の取り組みについて

- ・子どもにとって、必要な力を育める活動ではあるが、保護者にその重要性について理解してもらいにくい。活動についての説明の機会を十分にとることが大事である。

(2)防災体制づくり

- ・平成29年に大阪府消防本部より、優良防火管理者の表彰を受けたが、今年度3月には消防功績顕彰を受賞した。保護者も含めた年化2回の避難訓練のほか、府の防災訓練に参加し保護者への引き渡し訓練も合わせて行い、NHKの取材を受けた。

(3)次年度への展望

- ・今後、地域も巻き込んだ避難訓練が行えるよう方法を模索したい。さまざまな災害を想定し、炊き出しの経験も必要であると考えている。
- ・地域としては、自助の意識の必要性を浸透させているということで、即支援の必要性はないとのことであったので、共助という観点での取り組みを考えていきたい。

4. 講評

①教育内容について

- ・専門家を招聘しての取り組みは素晴らしく、前向きに取り組み、教師の資質向上を図っている。

②保護者アンケートについて

- ・1学期と3学期とを比較することで、保護者の揺れる思いも感じられる。数値に差が見られる項目については職員間での検討が必要である。
- ・評価することで指針が見出せ、価値観の多様な保護者からの情報の収集も必要である。

③情報の発信について

- ・情報の捉え方は、受け取り手の社会的習熟度により異なる。
- ・発信内容におどらされて間違っただけの情報を発信してしまう傾向がある。
- ・情報を出さないのは、不信感につながる。